

石破農林水産大臣のパリ出張の結果概要

平成21年6月
農林水産省

- 期 間: 平成21年6月24日(水)～6月26日(金)
- 場 所: パリ(フランス)

概 要

1. WTO非公式閣僚会合(6月25日)

- (1) OECD閣僚理事会の機会を活用して、20カ国(豪州(主催国)、米国、EU、伯、印、中ほか)の参加により、WTO非公式閣僚会合が開催。ドーハ・ラウンド妥結に向けた今後の交渉の進め方を中心に意見交換。
- (2) 我が国からの出席者は、石破農林水産大臣、二階経済産業大臣、伊藤外務副大臣、村上農林水産審議官、石毛経済産業審議官、北島寿府大使。
- (3) 我が方からは、モダリティ確立のための閣僚会合は、これまでの経験に鑑み、実質的な議論を重ね、成果を出すことに十分な確信をもつことができた上で開催されるべきであり、議論の進捗状況と各国の政治状況を見極めた上で、冷静に判断すべき旨主張。
- (4) 多くの国が、早期妥結を目指して、これまでに得られた成果をベースに、ジュネーブでの作業の加速化を指示すべきと主張。伯、中国等は、モダリティ合意を目指すというこれまでの交渉の進め方を変更すべきでない点を強調。
- (5) 議論を踏まえ、議長(クリーン豪州貿易大臣)より、次のとおり取りまとめ。
 - ① マルチのプロセスが基本であるが、二国間、複数国間での議論が全体の進展を促進する。
 - ② 9月のG20に進展を報告できるよう、ラミー事務局長には、夏休み前の更なる進展を目指して、ジュネーブでの交渉の加速化を促してほしい。

2. 要人とのバイ会談

(1) カーク米国通商代表との意見交換

今後の交渉の進め方を中心に意見交換を行った。先方は、マルチでの議論に加え、2国間協議の重要性を強調しつつ、静かな目標期日として来年中の妥結を念頭に交渉を進展させていきたい旨発言があった。当方からは、期限ありきではなく実質的な議論の積み重ねが重要である旨応答した。

(2) シャルマ印商工大臣との意見交換

WTO交渉の今後のプロセスや2国間のこれまでの協力などに関して意見交換を行った。先方からは、印は交渉の早期妥結にコミットしており、途上国・先進国の互いの立場を認識しつつも、昨年12月の議長テキストを基にして収れんに向けた議論の再開が必要との発言があった。

(3) ラミーWTO事務局長との意見交換

交渉の今後のプロセスに関する意見交換を行った。先方からは、2010年に交渉を終結させるために、できれば、今秋にモダリティのための閣僚レベルの会合を開くことが望ましい旨発言があった。当方からは、今後実務レベルの議論を深化させた上で、その結果を踏まえ、判断すべきである旨発言。

(4) ロイタード・スイス経済大臣との意見交換

今後の交渉においても、G10として協調することが重要であることを確認した。

(了)